

教育学部生・教職大学院生が授業を支援「プログラミングと防災教育」



宮崎大学の教育学部生と教職大学院生が、宮崎市立住吉南小学校の児童と一緒に地域の自然環境を「防災」の観点から学んでいただく場を企画した。

当日は、教育学部の選択科目「プログラミング教育」（担当 教育協働開発センター准教授 小林博典）を受講した学生、のべ 9 名が講師を務めた。9 月下旬から 10 月初旬にかけて計 3 日間学校を訪問し、4 年生 3 クラス（計 84 名）の児童とふれあった。課題解決の方法として、プログラミングを導入。小学校理科の授業実践に汎用性が高い教材の MESH を活用した。MESH は、理科における IoT 教材として用いられることがあるが、これを防災教育にも応用させた。

児童のプログラミング的思考を育むことを目的とした本実践では、同校の指導教諭を中心に各学級担任と協働で教材開発に取り組んだ。子どもたちは目を輝かせながら課題解決に臨んでおり、学生も「教える側」としての学びを修得でき、充実した実践となった。